

## 2017年の年頭にあたって

SDSN Japan 副議長／東京大学教授  
武内 和彦



国際社会は昨年当初から一斉に、「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成に向けた活動に取り組んでいます。SDSN Japan もこうした動きに拍車をかけるべく、昨年日本が議長国を務めたG7サミットプロセスへのインプットを視野に、「持続可能な開発目標(SDGs)の主流化に向けて」と題する政策提言をとりまとめ、

政府機関をはじめとする関係各方面への働きかけを行いました(提言の詳細はSDSN Japan のwebsite からダウンロード可)。

同時に、この提言を幅広いステークホルダーの皆さまと共有し、内外に発信することを目的として、昨年4月16日に公開シンポジウムを開催しました。このシンポジウムでは、SDGs達成には、社会・経済システムの抜本的な改革が不可欠であることが強調されるとともに、ビジネスの本流にSDGsを位置づけることや、地域での既存の施策や取組をSDGsと繋げることの重要性が指摘されました。

こうした動きのなか、日本政府は、昨年5月に全閣僚から構成される「SDGs推進本部」(本部長：内閣総理大臣)を設置し、幅広いステークホルダーの代表者や有識者から構成される円卓会議における議論を経て、昨年末に「SDGs実施指針」を策定しました(2016年12月22日SDGs推進本部決定)。この策定プロセスでは、ステークホルダーからの意見聴取などが積極的に組み込まれまし

た。この成果は本年7月の持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム(HLPF)において報告される予定であり、国内外からのさらなるフィードバックを得て、より効果的な実施が図られると期待しています。

SDGsの主流化を実現するためには、様々なセクター間のパートナーシップの強化が不可欠なことから、SDSN Japan では、昨年7月より国連大学と連携し、SDG ダイアログ・シリーズを実施してきました。これまで、高等教育の役割、低炭素技術の移転、生物多様性、水と都市、地域機構の役割などをテーマとして、多くのステークホルダーの参画を得て議論を重ねてきました。今後ともこうした活動を通じて関係者間の議論を深めるとともに、国内外に私たちの活動の成果を発信していきたいと思ひます。さらに本年1月末には、日本学術会議が開催する「SDGsの達成に向けた超学際研究とマルチステークホルダー協働の推進」をテーマとする国際シンポジウムの実施に向けて積極的に貢献してきており、日本の学術界との連携を強化することはもとより、様々なステークホルダーとの連携の強化にも努めているところです。

SDSN Japan は本年も、自治体や民間企業、市民団体、さらには学術団体など幅広いステークホルダーとの密接な連携の下、様々な活動を展開していきたいと思ひますので、関係各方面からのご理解、ご協力を引き続き頂きますようお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

### SDGダイアログの開催

2016年10月13日、国連大学サステナビリティ高等研究所との共催により、「SDGダイアログ：地域機構と持続可能な開発目標 — 科学と政策、能力形成」を開催しました。国連アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP)環境・開発政策セクションチーフのカティンカ・ウェインバーガー氏による基調講演に続き、パネルディスカッションにおいて、地域に応じた解決策を講じる重要性や、SDGsの主要課題に対処する上で政策形成に科学者が果たす役割について、参加者との対話を交えた活発な議論を行いました。



### SDGs実施指針の策定

2016年12月22日に開かれた第2回SDGs推進本部会合において、SDGs実施指針が正式決定されました。同指針は日本の国家戦略として、国内外の取組を省庁横断的に総括し、ビジョンと8つの優先課題等を示しています。

SDSN Japanは、指針の策定を受け、SDGs市民社会ネットワークなどとともに共同記者会見を実施しました。記者会見にはSDSN Japanプログラムディレクターの蟹江憲史教授が参加し、指針策定の意義を解説するとともに、SDGs達成に向けては、国の機関はもとより、幅広いステークホルダーの取組が不可欠であることを強調しました。

### ウェブサイトが新しくなりました

SDSN Japanのウェブサイトを更新しました。コンテンツが充実し、今後の活動予定等の情報を随時更新しておりますので、是非ご利用ください。<http://sdsnjapan.org/>